

2023年3月期 決算について

2023年 5月9日
JFE鋼板株式会社

2023年3月期の連結業績(2022年4月1日～2023年3月31日)

(百万円未満切捨て)
連結経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		経常利益	特別損益	当期純利益
	百万円	%			
2023年3月期	76,870	10.9	4,946	△ 154	3,483
2022年3月期	69,265	30.8	4,737	△ 218	3,197

注 連結子会社数 2023年3月期 5社、2022年3月期 5社

(参考)単体経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		経常利益	特別損益	当期純利益
	百万円	%			
2023年3月期	67,419	11.5	4,354	△ 154	3,217
2022年3月期	60,428	33.0	4,403	△ 218	2,973

【当期の概況】

国内薄板建材の需要は、コロナ禍からの経済活動正常化による緩やかな回復が期待されましたが、諸物価の高騰による消費マインドの低下や中小建築物の計画見直し等を受けて、新規住宅着工戸数(持家)は前年比▲12%、非住宅着工床面積は上期好調も下期に大きく減少して前年比▲1%となりました。このような事業環境の悪化により、当社の販売数量および生産量は、大幅に減少しました。

【当期の損益】

連結経営成績は、売上高76,870百万円(前期比+7,604百万円)、経常利益4,946百万円(前期比+208百万円)、当期純利益3,483百万円(前期比+286百万円)となりました。

単体経営成績は、薄板建材需要が低迷する中でも販売価格改善効果により前期比で増収となりました。しかし、歩留・原単位改善などのコスト削減を進めたものの、めっき鋼板などの販売・生産数量が落ち込んだこと、資材・エネルギー価格の高騰に伴う大幅なコストアップ、収益を下支えした在庫評価益の減少もあり、前期比で減益となりました。

【次期の見通し】

国内薄板建材需要は、インフレがもたらした景気下押し圧力により、先行き不透明感は増しており、予断を許さない状況にあります。また、資材・エネルギー・物流費を始めコストアップ圧力は強く、引続き、これらへの対応が重要な課題になっています。

このような環境下で以下の施策を実行し、収益確保を目指します。

- 品質・操業安定化とともに、カラー鋼板の増能力、徹底した省エネ活動によるエネルギー価格高騰への対応、物流費の抑制、本社費他の経費削減など、合理化を進めます。
- 鋼板製品販売においては、お客様にコストアップ基調が継続している状況をご理解いただき、再生産可能な適正価格の実現に引き続き取り組みます。また、小ロット品や低採算品の価格改善にも、お客様のご理解を頂けるよう活動を継続します。
- 建材事業については、商品価値に見合う適正価格の実現とともに、高機能商品の開発・事業化により収益力アップを目指します。

以上